

5.

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

加古川から由良川水系域へ 山越のない「水別れ街道」を行く 2011.5.14

古代 大陸・朝鮮半島から日本へ 日本海沿岸から大和を結ぶ鉄の道



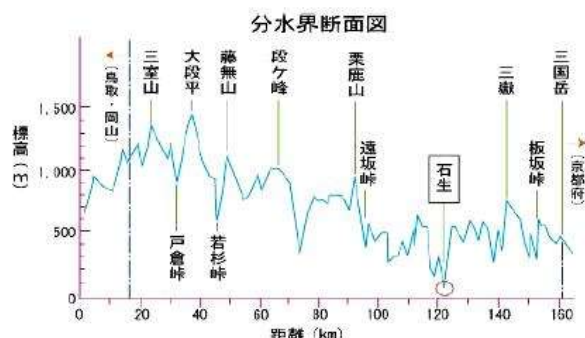
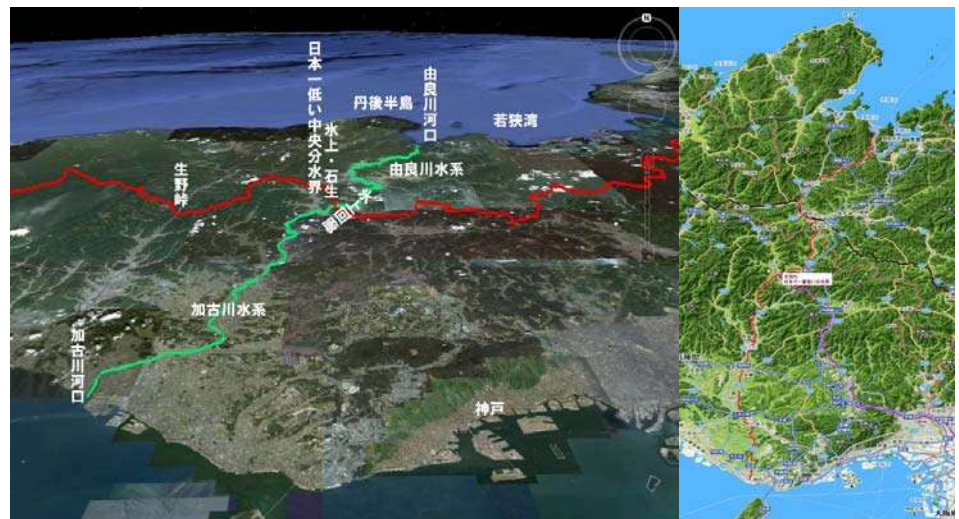
日本一低い中央分水界 丹波市氷上町石生 「水別れ」 2011. 5. 14.

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”日本列島の背骨“中央分水界を容易に越えられるわずか95.4mの標高の氷上回廊は太古の昔から、現在に至るまで重要な人の交流・交易路であるばかりでなく、数多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

弥生末から古墳時代にかけての日本誕生の黎明の時代
大陸・朝鮮半島の鉄を必要とする卑弥呼邪馬台国・大和初期王権にとって 出雲・妻木晩田・青谷上寺地 そして但馬・丹後と鉄の王国が連なる日本海沿岸へ瀬戸内側から安全・容易に出られるこの氷上回廊は 重要な大陸・朝鮮半島との交流路。
瀬戸内海とともに古代の鉄の道をイメージし、何度となく古代の鉄を求めて訪ねた道である。

この4月 書店で「邪馬台国と「鉄の道」-日本の原型を探索する-」という新刊文庫本が目にとまりました。
ここにも日本の源流を鉄と結びつけ、氷上回廊を見ている人がいると「鉄の道」の表題に惹かれて読みました。



まだ、その評価が定まった説ではありませんが、
魏志倭人伝に記された北部九州から邪馬台国への
道の謎が、

「 朝鮮半島→北部九州から
山陰日本海沿岸→氷上回廊
→淡路島→紀ノ川をって大和へ 」と

実に明快に謎解きされていました。

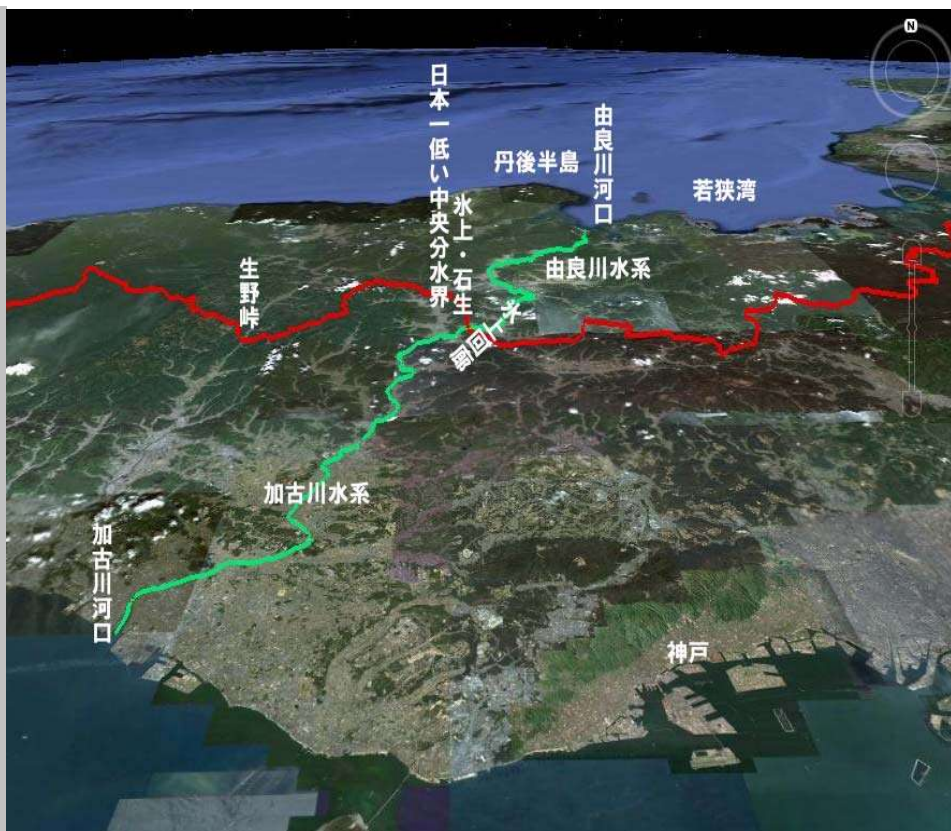
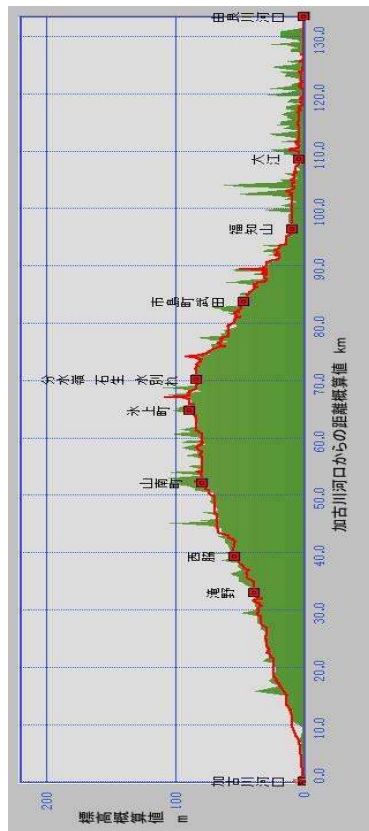
また、この氷上回廊の鉄の道が日本での製鉄の始
まりとともに琵琶湖経由の鉄の道へ移ってゆくと
の説も新鮮で気に入っています。

何度も通ったことがある氷上回廊周辺ですが、「本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」

古代 まだ馬がない時代 陸路では平坦さが本当に重要だったろう。

瀬戸内の海路では島が多く 海賊や多くの国々との和睦なしには海路は厳しく、平坦で安全が確保できる日本海沿岸から氷上回廊を通るルートは古代の重要路に違いない。 国土地理院の地図上でねーとをしらべると 本当にくだらかな道筋。 分水界の低さもさることながら、瀬戸内から山越え・峠越えなしで 日本海へ行けそうである。

これは おもしろそう 是非やってみなければ・・・



国土地理院の地図での氷上回廊並びに分水界の標高トレース 氷上回廊の面白さが一目

また、尼崎で育った私には摂津の国 武庫川水系を遡って篠山から氷上・水別れを越える道 現在の福知山線が通る道の方に昔から親しみがあり、 この道との比較も実際に確認してみたい。

日本で一番低い分水界「水別れ」を直接見たのも随分昔。以前とは全く違う美しい公園に整備されていると聞く。

是非 きっちりと周囲の地形を眺めながら 分水界「水別れ」を越えて氷上回廊を行こうと。

この氷上回廊の中を国道 175 号線が明石から加古川を遡り、丹波市氷上町石生「水別れ」で分水界を越えて由良川水系の竹田川沿いを福知山へ抜け、 そのまま由良川の河口の日本海(舞鶴)を結んでいる。

何度もミニバイクや車で走った道である

今まで気にも止めていなかったのですが、今回この国道 175 号線を「水別れ街道」と名づけられていること初めて知りました。また、福知山から西へ由良川に合流する牧川沿いの国道 9 号線を進むと但馬和田山から円山水系の日本海側の豊岡・出石へも容易にたどることができて この氷上回廊は今もに瀬戸内側と日本海を結ぶ重要路である。

さらに中央分水嶺を挟んで北にある市島町と南側の氷上町が合併して丹波市を形成しているのも、分水嶺が低く合併に抵抗感がなかったためでしょうか・・・珍しいケースです。

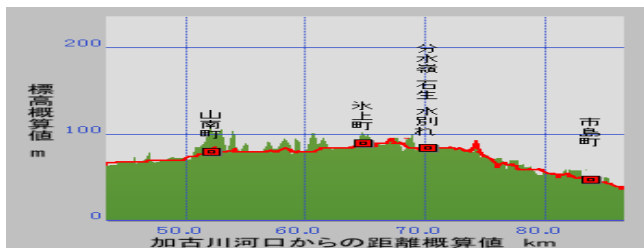
地図を見ながら 少し調べはじめると次々と面白いことが出てきて、実に面白い。

私の好きな青と緑色グラディエーションの美しさにびっくりした「九谷焼 徳田八十吉展」が

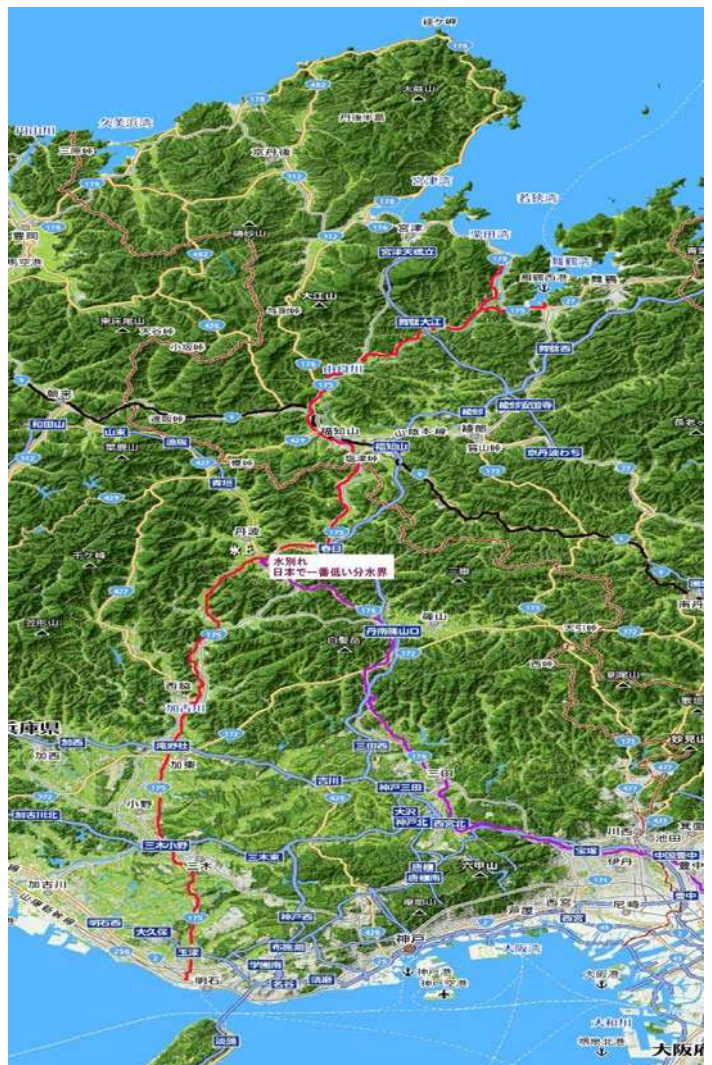
ちょうど篠山立杭の郷 兵庫陶芸美術館で開催されているのに合わせて、

五月晴れの 5 月 14 日朝 本当に山越えなしで瀬戸内側から日本海まで行けるか??」を確かめに

家内と二人神戸を出て 一番の興味「氷上回廊は 新緑の中を流れ下る加古川から由良川へ「水別れ街道[国道 175 号線]」を走りました。



日本で一番低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」
北側は日本海へ 南側は瀬戸内へと水が別れる



2. 【資 料】 氷上回廊 概要 と 古代 氷上回廊周辺の古代遺跡分布

1. 氷上回廊 氷上回廊と日本で一番低い分水嶺 丹波市氷上町石生水別れ

風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会い、
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。

このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より

氷上回廊は1000～3000m級の山々が連なる本州の内陸部にあって、標高わずか95mで本州を南から北へまたぐことができる兵庫県から京都府の内陸部を南北に貫く細長い低地帯。この特殊な地形によって、雪国と南国の気候が出会い、生命が不思議に入り混じり、豊かな文化と歴史が培われてきました・・・

● 日本海側と太平洋側に大きく分断された川魚たちの世界

氷上回廊の低地帯では、かつて、日本海側へ流れていく川と太平洋側へ流れていく川とが、洪水のたびに入り混じり、北国と南国の二つの世界で進化してきた魚たちが、この入り混じった水の中で頻繁に出会い、相互に広がっていった。氷上回廊を通り抜けて、日本海側と太平洋側の境界線を越えていた。

日本海側の河川にのみに生息するといわれていたヤマメが、太平洋側に生息するアマゴ（ヤマメの近縁種）と混生しているのが見つかった。（丹波市青垣町の佐治川（加古川上流域））

オヤニラミやイトモロコ、ナガレホトケドジョウなどの南方系の魚は北の由良川に、北方系のホトケドジョウやアブラハヤ、ミナミトミヨ（※今は絶滅）などは南の加古川に分布を広げた。

その結果、ホトケドジョウとナガレホトケドジョウ、アブラハヤとタカハヤなど、本来北と南で別々に暮らしていた近縁種同士が同じ河川で共存するとても珍しい水域となっている。

● 陸の生き物たちも、この氷上回廊を南北に駆け抜けてきた。

低地に暮らす植物たちにとって、高い山々に登ることは容易ではありませんが、氷上回廊は、標高100m内外で本州をまたぐことができる低地帯。

太古の昔から、寒冷な氷河期と温暖な間氷期という気候変動を繰り返してきた地球の気候変動のリズムにあわせて、植物たちも、この氷上回廊を北から南へ、南から北へと駆け抜けていた。

氷上回廊を取り巻く地域では、今もなお、南国の森に栄えるカナメモチやリンボク、ヤマモモ、モチツツジなどと、北国の森に栄えるユキグニミツバツツジやカタクリ、エゾエノキなどが豊かに混在しています。

丹波市ホームページ 「氷上回廊」より <http://www.tamba-hikamikairo.com/index.html>

2. 【資料】氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

2.1. 氷上回廊周辺 但馬・丹波・丹後の主要古墳分布図

氷上回廊は日本海/瀬戸内を結ぶ重要な交流路

大陸・朝鮮半島と大和を結ぶ重要な交流路であったに違いない

インターネットにあつた資料を集めましたので、時代の異なるものやプロット漏れがあるとおもいます。

古代日本の黎明の時代に氷上回廊周辺から日本海にかけての地域に大きな勢力(国)があり、初期大和王権と大きくかかわっていたことやこの時代に氷上回廊が重要な役割を果たしていたことを示す参考資料とお考えください。



兵庫県の主要全貌後円墳



丹波・丹後の主要古墳分布



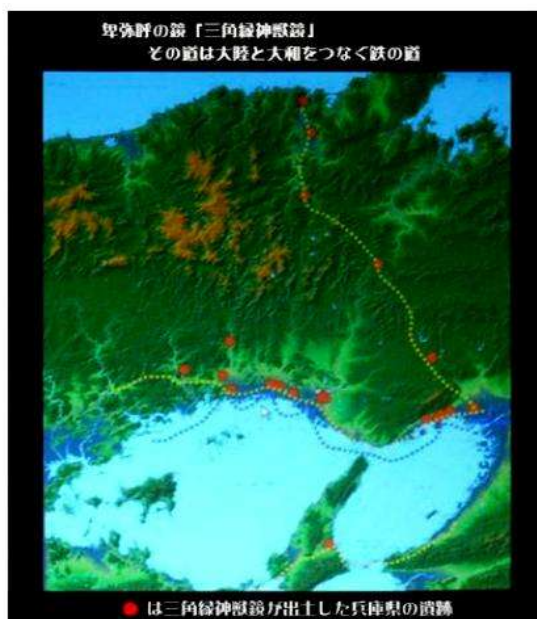
日本海沿岸の大型円墳



丹波・丹後・但馬の 主要古墳 概略図

京都府側・兵庫県側の2つの資料を
合成しました

2.2. 但馬・丹後は古代鉄の王国 そして 氷上回廊は日本海沿岸と瀬戸内・大和を結び古代の鉄の道



少々 こじつけ気味であるが、兵庫県で出土した三角縁神獣鏡の出土地を点でつなぐと、畿内攝津の尼崎から大阪湾神戸を播磨へ抜けてゆく重要路 瀬戸内海の道筋と丹波・但馬を抜け、日本海をたどる道筋が見えてくる。
特に 丹波・但馬・因幡とつなぐ道は、数多くの渡来人・製鉄鍛冶の歴史を刻む鉄の道。この鉄の道の存在が大和王権を作った吉備・出雲・大和を結び付けたに違いないと考えている。

和鉄の道 2007年1月

「神戸市内出土の三角縁神獣鏡の足跡が語る古墳時代の鉄の道」より



鉄の生産地を示す「金屋」系統・湯凝系統・鉄の輸送路を示す湯浦(由良)系統の地名を気がついた近畿地方の地図に落とす

鉄の道 マップ

見事に由良川=加古川=淡路島=紀ノ川ラインに乗る
小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より

【弥生時代 鉄製品が出土した丹後の遺跡】

邪馬台国大研究・ホームページ / 丹後半島の歴史 / 遠所遺跡遠所遺跡より

http://inoues.net/tango/enjyo_iseki.html



番号	遺跡名	所在地	遺跡の種類	時期	鉄製品	銅製品	土器	石器	金	銀	ガラス	その他	備考
1	加古川	加古川市	弥生	弥生前期～中期	1								1
2	加古川	加古川市	弥生	弥生中期～後期	1	2							2
3	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	3	1							117
4	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	2	1							5
5	加古川	加古川市	弥生	弥生中期～後期	8	1							9
6	加古川	加古川市	弥生	弥生中期									3
7	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
8	加古川	加古川市	弥生	弥生中期～後期	4	8	1						15
9	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
10	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	10	8	2						18
11	加古川	加古川市	弥生	弥生中期～後期	1	2	1	25	10	4			45
12	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	7	1							8
13	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	15	6	1						31
14	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	6	2	4	1					2
15	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	2								2
16	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1	2							3
17	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	3	1							4
18	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	2	1	2						10
19	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	5	1							7
20	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	5	1	1						7
21	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1	2							3
22	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1	1							1
23	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
24	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1	2	11	1	4				19
25	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
26	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1	1							2
27	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	2								2
28	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
29	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1
30	加古川	加古川市	弥生	弥生中期	1								1

【但馬・出石 砂鉄を副葬していた入佐山 3号墳】

【但馬の大王の墓 和田山 茶すり山古墳(巨大円墳)】

和鉄の道 コウノトリが結ぶ古代和鉄の道 但馬 出石・豊岡より



3. 新緑の加古川から由良川へ 氷上回廊を南北に走る水別れ街道 [国道175号線] を行く スナップ 「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海までゆけるのか??」



1. 陶芸の里 立杭で「九谷焼 徳田八十吉展」を見た後、篠山から国道176号線[デカンショ街道]で丹波市氷上町へ



篠山から直接氷上回廊の氷上盆地に入るには鐘ヶ坂の峠越えが必要だった 2011.5.14.

篠山から加古川に合流する篠山川沿いを西に山南に下れば、氷上回廊に入れるが、大きなロスになる

2. 加古川が氷上盆地から南へ流れ出る盆地南端部にて、南から氷上回廊を登ってきた水別れ街道 175号線に出る この加古川の土手周辺に広がる田園では5月の休みが過ぎ、田植えが始まっていました 丹波市氷上町新郷



周囲を緑に包まれた山に囲まれた氷上盆地の田園の中をゆったりと加古川が南へ流れ下っていました
田園では田に水が入り、田植えの真っ最中 そんな中に レンゲ畑が加古川の土手まで続いていました

3. 日本一標高の低い中央分水界 丹波市氷上町石生「水別れ」

氷上回廊はこの水別れの分水界を越えて 北の由良川水系の地域を日本海までなだらかに下ってゆく





街の中を日本一低い分水界が走る丹波市氷上町石生 ここが分水界だととはとても思えない
丹波市氷上町石生水別れ この谷川が分水界の上を走る 左側が日本海側 右側が瀬戸内側



水別れ橋から 水別れ公園方面 谷川沿いの下ってきた道が分水界



水別れ橋から 分水界を越えて 北への道 275号線(旧道)

東西に走る中央分水界を形成する東の丹波山地と西の中国山地
その尾根筋の切れ目が 氷上町石生 水別れ公園 水が二手に分かれる

丹波市氷上町石生水別れ 分水界を越えた北側の街道筋



日本で一番低い分水界 水別れ

氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.

4. 水別れの分水嶺を越えて 北側 由良川水系竹田川が流れる丹波市市島町へ 北へ流れる竹田川を見る
丹波市は中央分水嶺を越えて 表日本・裏日本両方に広がる珍しい街



分水嶺の山々を眺めながら、田園地帯を北へ 春日町から市島町へ 2011.5.14.



市島町を北に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011.5.14. 竹田川は間違いないと北へ流れている 加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。

石生の街をぬけ、分水嶺の山々を眺めながら 少し下っていると感じながら北へ
春日の街並みを抜けると広い田園地帯が広がる市島町 竹田川がゆっくりと北へ下っていく姿が見えました



市島町を北に走る水別れ街道から少し西へ 分水嶺の山並みに痴れたところに九尺の藤で有名な古刹 白毫寺
ちょうど満開で ほのかな花の香がただよう淡い紫の花に顔を突っ込む

5. 由良川に合流する竹田川が北に注ぐのを確認して、水別れ街道を明石までまっすぐ氷上回廊の中を引き返す
氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくなし
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道 卑弥呼の道だったのかもしれない



加古川の土手を南へ山間地をぬけると広い播磨平野
古代 大陸と大和を結ぶ鉄の道の本街道
卑弥呼の道だったのかもしれない

氷上回廊はすごい回廊 やっぱり 瀬戸内から日本海まで 高い山越え・峠越えはまったくありませんでした

「氷上回廊を通れば 本当に山越・峠越なしに瀬戸内側から日本海無でゆけるのか???」 氷上回廊の謎解きの Walk もこれで完了

日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊

3. [まとめ] 加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」に行く

風が会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・



丹波市氷上町石生の「水分(みわか)れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側とに隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか 95.4m の標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。

南下の例としては日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島諭鶴羽山に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば

<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html> より



本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずに行けるのか????

これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました。

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい九谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始まりました。また、一面ピンクのレンゲ畑も。

そんな中を日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川南へ加古川がゆったりと流れ下っていました。

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田園風景でした

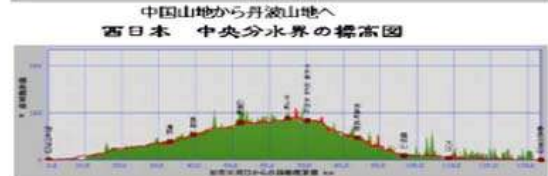
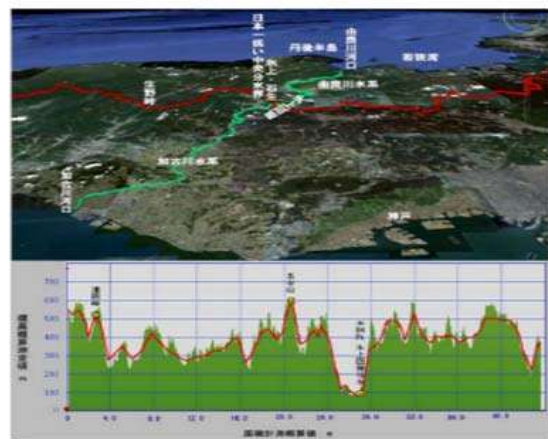
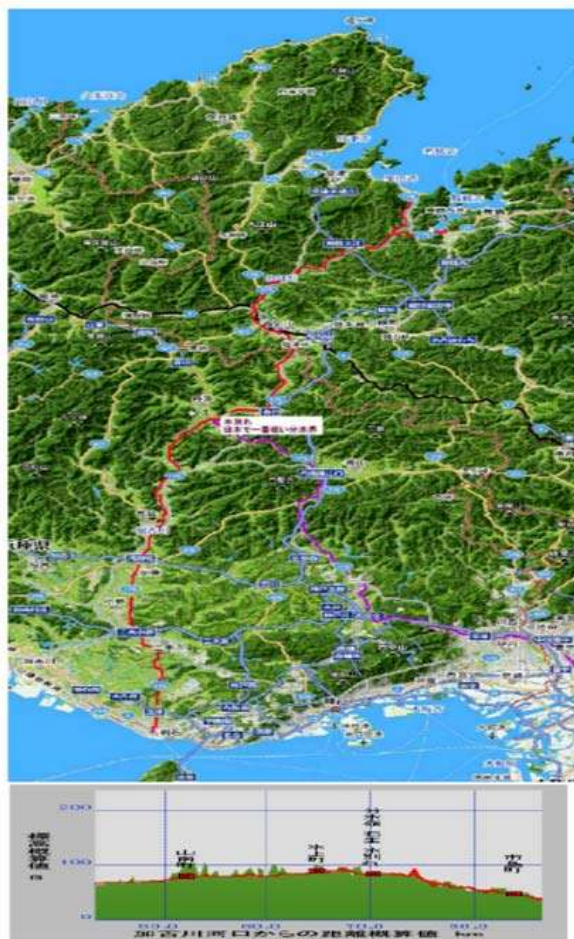


1. この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
2. 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」
久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。(国道 176 号線が国道 175 号線にひきつがれる水別れ橋で)
3. もう一つ 「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。

また、福知山から 西に国道 9 号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和山から但馬の 中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

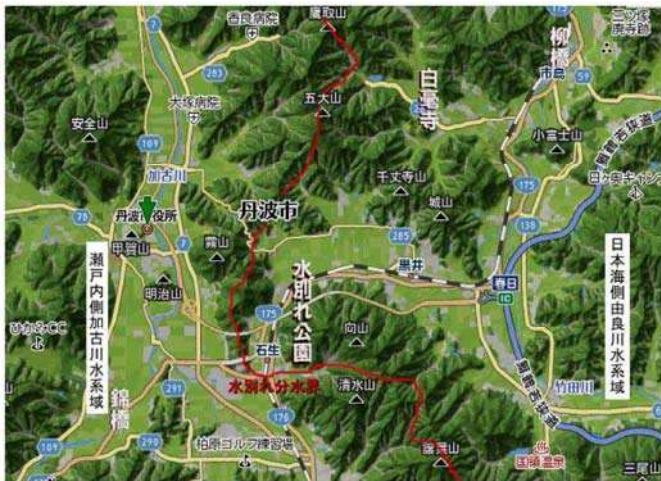
氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。 太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」 「卑弥呼の道」 そして 今も 国道 175 号線が走る地域交通の要である



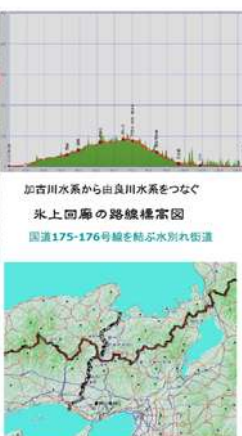
参考資料【和鉄の道】より

1. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説
2. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡
3. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代和鉄の道「古代 和鉄の郷但馬 出石」
4. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
6. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ Country Walk

ほか



中国山地から丹波山地へ
西日本 中央分水界の標高図



中国山地から丹波山地へ 中央分水界



分水嶺の北 市島町を北から南へ流れる由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



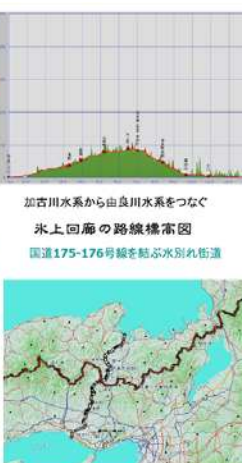
日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 米上町 水別れ公園



分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.



中国山地から丹波山地へ
西日本 中央分水界の標高図



中国山地から丹波山地へ 中央分水界



分水嶺の北 市島町を北から南へ流れる由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 米上町 水別れ公園

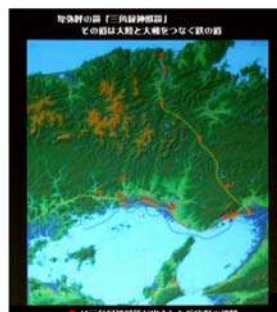


分水嶺の南 米上を北から南へ流れる加古川 丹波市米上町新郷 鉄橋で 2011.5.8.



魏使は日本海側から邪馬台国・大和へ 古代の動脈 由良川＝加古川ライン
由良川を南に遡上し、支流の土師川・竹田川・黒井川を経て、加古川上流に出ると後は加古川を下るだけ。
一度の山登りも経験することなく瀬戸内に出られる。
わずかに海拔95メートルの峠（いつ越えたかわからぬ「日本一低い」分水嶺）が一つあるだけである。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より



少々 こじつけ気味であるが、兵庫県で出土した三角縁神鏡の出土地を遡ると、畿内・近畿の定跡から大和・河内・丹波・美濃・信濃へと抜けてゆく重要な道。瀬戸内海の定跡と大和・河内・丹波・美濃・信濃をたどる道筋が見えてくる。
特に、丹波・信濃・近畿とつながる道は、数多くの遺跡・銅鏡・鉄器の出土地と重なる。この鉄の道の存在が、大和・河内・丹波・美濃・信濃とつながる道筋をたどる道筋をたどる道筋が見えてくる。

和歌の道 2007年1月
「神戸市内出土の三角縁神鏡の足跡が語る古墳時代の鉄の道」より



鉄の道 マップ
鉄の生産地を示す「金屋」系統・通延系統・鉄の輸送路を示す「瀬戸内」系統（由良川）系統の地名を横についただけ近畿地方の地図に落とす。
夏事に由良川＝加古川＝波瀬川＝紀ノ川ラインに乗る。

小野田泰直著「邪馬台国と『鉄の道』」より



新緑の中に埋もれる陶芸の里 立杭 2011.5.14.



丸谷悦 人間国宝 三代徳田八十吉展 煌めく色彩の世界
篠山市立杭 兵庫陶芸美術館 2011.5.14.



デカンショ街道 国道176号線 篠山口駅前 2011.5.14.



武庫川水系の篠山から直接加古川水系の氷上盆地に出る176号線デカンショ街道では鐘ヶ坂の山越が必要。 2011.5.14.

かつて考えたこの道の道は鐘ヶ坂の山越えが必要だった

または、篠山から、加古川に合流する篠山川沿いを西に下って山南に出れば、山越えせず氷上盆地に入る



デカンショ街道 176号柏原駅付近

柏原駅のすぐ北で そのまままっすぐ進めば分水嶺の石生へ出れるが、左に折れて、盆地の西端を流れる加古川岸から「国道175線水別街道」にて分水嶺石生へ向かう



加古川へ向かって西へ 加古川に架かる錦橋手前の氷上町稲畑周辺

2011.5.14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・氷上の里で 2011.5.14.



レンゲ満開の加古川西岸土手下の田園 丹波・氷上町新郷の里で 2011.5.14.



レンゲ満開のか古川西岸 土手下の田園 丹波・米上町新郷の里で 2011.5.14.



レンゲ 丹波・米上 新郷のか古川西岸で 2011.5.14.



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・米上の里で 2011.5.14.



丹波市米上町 錦橋から眺めたか古川 上上流側 下下流側 2011.5.14.



か古川東岸を北の分水界 石生へ 2011.5.14.
水別れ街道 国道175号線 米上・稲畑周辺



か古川に合流する柏原川の合流点で東へ折れて
柏原川に架かる稲畑橋を渡ると西日本の中央分水界石生



石生周辺 国道175号線はまっすぐ丘陵から分水界 城山トンネルへ
日本一低い石生の分水界は丘陵の右側奥 丘陵を左から右へ滑る
正副 城山の裏側が由良川水系 手前がか古川水系である





中央分水界に沿う谷に架かる水別れ橋 2011. 5. 14.





氷上町石生・水別れ公園 2011. 5. 14.



水別れ公園にある日本一低い中央分水界の概説案内板



日本で一番低い分水界 水別れ 氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



日本で一番低い分水界 水別れ 氷上町石生 水別れ公園で 2011.5.14.



水別れ公園から谷川ぞいの分水界に沿って水別れ橋まで戻り 北へ折れて由良川に合流する竹田川流域を訪ねて市島町へ 2011.5.14.



水別れ橋から 水別れ公園方面 谷川沿いの下ってきた道が分水界



水別れ橋から 分水界を越えて 北への道 275号線(旧道)



柳橋より南側
分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界 日本一低い分水嶺 米上町 水別れ公園



柳橋より南側
分水嶺の南 米上を北から南へ流れ下るか古川 丹波市米上町新郷 緑橋で 2011.5.8.



分水界の山々を眺めながら、田園地帯を北へ 春日町から市島町へ 2011.5.14.



行く手に竹田川が見え、間違いなく北へ流れている 2011.5.14.



竹田川は間違いなく北へ流れている 2011.5.14.
加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。
市島町支所まで行って 橋を探して 川の流れの写真を撮って引き返そう



前方に「白毫寺」の案内標識 「九尺の藤」で有名で 今満開 白毫寺に立ち寄る



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011.5.14.



丹波市市島町 白毫寺 九尺藤 2011.5.14.



市島町を北に流れ下り、由良川に合流する竹田川 2011.5.14.

竹田川は間違いなく北へ流れている

加古川から竹田・由良川を結ぶ水別れ街道は山越えすることなく 瀬戸内と山陰を結んでいることが、確認できた。



柳橋より南側



柳橋より北側

分水嶺の北 市島町を北から南へ流れ下る由良川水系竹田川 丹波市市島町柳橋で 2011.5.8.



日本列島中央分水界

日本一低い分水嶺

氷上町 水別れ公園



錦橋より南側



錦橋より北側

分水嶺の南 氷上を北から南へ流れ下る加古川 丹波市氷上町新郷 錦橋で 2011.5.8.



市島からまた、水別れ街道を南へ 分水界を越えて 氷上 2011. 5. 14.



加古川の土手に戻ってきて、 まっすぐ加古川に沿って南へ 水別れ街道を下る



氷上から 加古川に沿って 篠山への分岐 山南町へ 2011. 5. 14.



黒田の庄 西脇周辺で

2011. 5. 14.



山間を抜け、広大な播磨平野をまっすぐ南へ 社町周辺 2011.5.14.

本当に氷上回廊を通れば 瀬戸内海から日本海まで、山越えの峠通らずにゆけるのか???

これを確認したくて、氷上回廊を走る水別れ街道を走りました

新緑に包まれた陶芸の郷で 素晴らしい丸谷の陶芸展を見て、水別れ街道を走る山々は新緑に包まれ、街道筋の田圃には水が入り、田植えが始っていました。 また、一面ピンクのレンゲ畑も。 そんな中を 日本で一番低い分水界から 北に由良川に流れ込む竹田川 南へ加古川がゆったりと流れ下っていました

今でないと見られぬ春から初夏へと移り変わる季節の素晴らしい田園風景でした

1. この氷上回廊に行く水別れ街道は 日本海まで 本当に山越え峠がありませんでした
2. 加古川水系と由良川水系の分水界 日本で一番低い分水界 氷上町石生の「水別れ」 久しぶりでしたが、美しい公園に整備され、水の流れの分水には作られた分水の感じがしましたが、分水界を越える道にしゃがんで見通すとここが分水界と判る。
(国道176号線が国道175号線にひきつがれる水別れ橋で)
3. もう一つ「武庫川水系の篠山から山越えなしに水別れの分水界を直接越えられる」と思っていました、篠山盆地と氷上盆地の間の鐘ヶ坂の山越えがありました。

氷上回廊を通して、福知山に出ると由良川を下って丹後の日本海に出られる。
また、福知山から 西に国道9号線の道を取れば、大きな峠を越えることなく和田山から但馬の中心を日本海に流れ下る円山川に出られる。

氷上回廊は大きな山越・峠越なく、瀬戸内海と日本海側の但馬・丹後をつなぐ道であること確認。
太古からの動植物移動の重要路 古代 大陸と倭を結ぶ「和鉄の道」「卑弥呼の道」
そして 今も 国道175号線が走る地域交通の要である

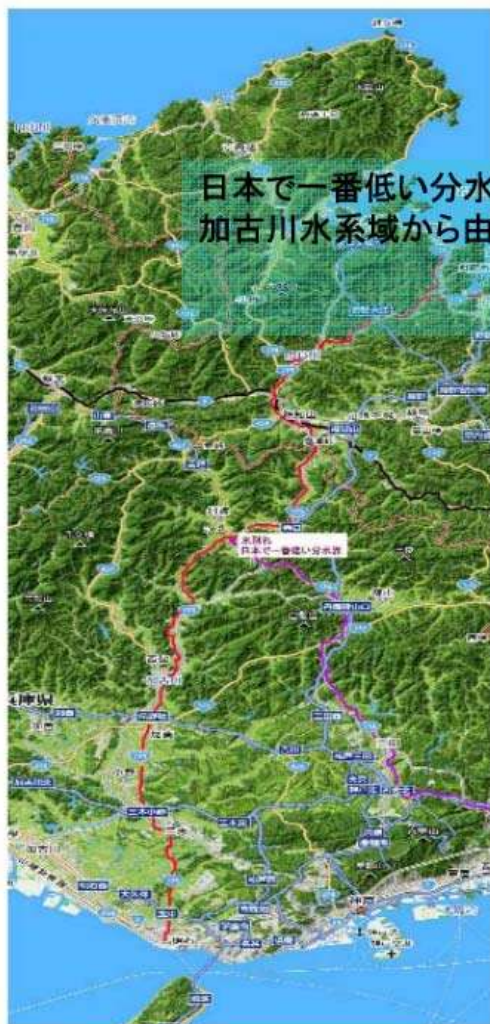


参考資料 和鉄の道 より

1. 古代鉄の王国 丹後 天女の通った道は和鉄の道 羽衣伝説
2. 丹後国 もうひとつの邪馬台国 大陸と日本を結ぶ鉄の大加工基地 遠所製鉄遺跡
3. コウノトリが大陸と日本を結ぶ古代和鉄の道 「古代 和鉄の郷但馬 出石」
4. 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 神戸市内の「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
6. 古代 大和への道【4】 紀ノ川水系【2】 古代「紀路」紀ノ川の流れて大和へ Country Walk

和鉄の道





日本で一番低い分水界[水別れ]を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊
加古川水系域から由良川水系域へ 山越・峠越のない「水別れ街道」を行く



風が出会い、水が入り混じるところ 雪国の風と南国の風が、ここで出会う
水が生まれ、川が入り混じり、そして また二つの海へと分かれていく・・・

丹波市氷上町石生の「水分（みわか）れ」は、本州で最も低い標高の中央分水界で、日本海に注ぐ由良川と瀬戸内海側へ流れる加古川をつなぐこの低地帯は「氷上回廊」と呼ばれている。

中央分水界は、日本列島を太平洋側と日本海側に隔てる“高い壁”のようなものであり、わずか95.4mの標高の氷上回廊は、多くの生物の南北の移動経路として重要な役割を果たしてきました。

例えば、カナメモチやリンボクなどの照葉樹林(*)構成種は氷上回廊に沿って日本海側に入り分布域を拡大し、アブラボテ、ニゴイ、ホトケドジョウなどの魚類も氷上回廊を北上して分布域を拡大したとの報告もあります。南下の例としては、日本海側を分布域とするユキグニミツバツツジが六甲山や淡路島・徳島に分布し、六甲山のブナも日本海側のブナに由来するものと考えられています。

このように、多種多様な生態系が県内に存在する背景には、動植物が出会い、交わった氷上回廊の存在が重要な役割を果たしたと考えられている。

ひょうごの生物多様性ひろば <http://www.pref.hyogo.jp/3N/np/npbios/biodiversity/index.html> より

